特集

Where Are You Going?

羽ばたこう、大空へ。勇気あるところに希望あり。

夢に向かって、新しい道を選ぶとき…卒業は、人生の大きな節目ですね。ゴールは、スタート。さあ、どこに向かって飛び立ちましょうか。新しい環境で始まる、さらなる挑戦にエール！

進級、進学、就職、転勤、転職、リタイア、結婚、エトセトラ…転機は好機、希望を胸に、それぞれのネクストステージへ。

今月は、門出応援、卒業スペシャルをお届けします。

陸上選手を卒業

塚原 直貴さん

岡谷市出身。岡谷北部中、東海大三（現東海大諏訪）高、東海大卒。
富士通に入社し富士通陸上競技部所属、'06・'07・'08・'11年と日本選手権優勝。銅メダルに輝いた北京五輪陸上男子400メートルリレーの第1走者。日本の五輪史上初となる男子トラック種目でのメダル獲得に貢献、日本男子短距離界のエースとして活躍した。自己ベストは10秒09（2009）。先シーズン限りで現役を引退。現在も富士通に籍をおき、広告塔としての活動をする一方、スポーツ環境の充実と日本陸上界の発展のため、子どもたちの陸上教室や講演会などに忙しい。

日本中が歓喜に包まれた北京オリンピックの感動…思い出すたび、胸が熱くなりますが、ご自身でふり返っていかがですか。

アスリートとして、めざしてきた大舞台に立ち、結果を残せたこと、仲間とがんばってきて、喜びを分かち合えたこと。それはもう、どんなことがあっても忘れることのない、かけがえのないものです。やるときはやる、それをつきつめて、陸上で身を立てる人になれたことをうれしく思っています。ただ、大会のあとは、自分に苛立つことも多かったです。

道を拓いているという自負、期待に応えなければという意志とは裏腹に、喪失感などもあって、気持ちと結果がちぐはぐとなり、わかっていても、修正できない、先に進めない、もどかしさを感じました。

昨年の11月に引退表明をされましたが、決断に至った経緯、そしていまの心境などをうかがえますか？

ケガにより、すべてを出し尽くして戦えない状況が長く続き、ロンドンにも出られずだったので、昨年の日本選手権（リオ五輪代表選考会）にかけていたのですが、ケガに対処する調整で精一杯だったこともあり、悔しい結果に終わりました。それを受けとめ、技術の試行錯誤も、迷ったり悩んだりした経験も、これからは、違ったかたちで生かせたら、と思いました。1つのことをやり続けた、これは大きな自信ですし、やりきったからこそ、伝えていかれるのかなと。サポートにまわって、使命を果たしたい。いまは、頂点をめざしてがんばっている選手の後押し、という新たなステージを見すえて、どんなことができるか考えているところです。

2008年9月 凱旋パレードのようす

陸上とのかかわり、短距離選手になったきっかけとか…あらためて教えてください。

小さい頃は体が弱く、ぜん息があったので、体力をつけるために、バスケや水泳など、手当たり次第にスポーツをしていました。かけっこは、保育園でも速かったと記憶していますが、陸上に目覚めたのは小3の時。恩師が陸上経験者だったこともあって、まず走り幅跳びを始め、短距離は5年生くらいからです。一気に発散するところ、白黒はっきりつくところがいいと思いました。

学生時代から活躍されましたね。

中学時代は、岡谷東部中にライバルがいて、100分の1秒とか負けてました。今でも彼に会うと、あの時は…なんて話になります。それでも、全中で結果が出せて、中3のジュニアオリンピック200mで優勝し、卒業文集に、夢は、オリンピックに出ること、と書きました。

走るのが好きでしたから、続けていくことに迷いはなかったのですが、高1の冬には、辞めたくて泣いたこともありました。環境の変化がストレスとなり、体調管理も思うようにできなくて、それでも、顧問の北澤忠弘先生は「陸上部はみんなの手本、勉強も怠けるな、トップをめざせ」と容赦なくて…、ほんとうにきつかった（笑）。今になればわかりますが、壁を乗り越える挑戦を、先生も一緒にしてくれていたのですよね。自分の甘さと向き合い、弱さを知り、態度や生活をあらためるよう、熱心に面倒を見てもらい、そのお陰で、高3のインターハイは100m・200m2冠。目標が定まり、自分がどこに向かいたいか気づけた、まさに感謝の3年間でした。

高校時代…北澤先生の厳命で坊主頭!!

そんな出会いがあって、いまの塚原さんがあると？

そうですね。なのでこれから、スポーツをする子どもたちの役に立ちたいと思います。故郷には恩がありますから、みんなを元気に笑顔にできるよう努めます。やり続けること、そして、こうありたいと思う信念や野心を貫くことが、世界への飛躍につながると伝えたいですね。

（1月21日　イルプラザにて）

インタビューからわずか4日後、国際オリンピック委員会は、2008年の北京五輪の男子陸上400メートルリレーで、ジャマイカチームのネスタ・カーターにドーピング違反があったとし、チームの失格、ウサイン・ボルトらメンバーの金メダル剥奪を決定。日本が繰り上がりで2位になる可能性ありと報道され、ボルトは直後にメダルを返上している。

塚原さんは「銀になれば、うれしいですが、走って2番だったわけじゃないので…正直複雑です」とコメント。

岡谷市看護専門学校2年生
青木 昭子さん
4月から正看護師として伊那市内の病院に勤務

看護の道を選んだわけは？

看護師だった母からハードな仕事と聞かされ、そうしたようすを見て育ったので、自分が看護師になることはないと思っていたのですが、事務職として病院に勤めたことから、働く看護師さんに接するようになり、たいへんではあるけれど、やりがいのある仕事と感じました。母もそうでしたが、子どもの集まりでケガ人が出た場合などでも、動揺することなく、てきぱき対処できるので、プロフェッショナルだなと。

東日本大震災の折には、県庁で働いていたこともあり、被災地の状況を日々耳にしていました。看護師だったら、助けが必要な人の役に立てると思い、やるからには急性期で働ける看護師になりたいと考え、準備をしました。

2年間の思い出は？

朝、家を出るのが子どもたちより早いので、心配だったり、たいへんだったりしました。昨年は、下の子がまだ保育園だったので、母の手も借りて…。

学校では、クラスメイトや先生に恵まれ、自分らしく過ごすことができました。ふり返ってみて、もっとやれたかも、と思うことがなくはないですが、それでも、ひとつひとつ積み上げてこられたという達成感はあります。

行事も楽しかったです。チームで出しものの練習をしたり、文化祭には、地域の人とも交流できたり、授業とは違う先生たちの顔が見られたり…いい思い出です。

看護師となって働く抱負をお願いします。

実習の際にお世話になった看護師さんが目標です。相手と向き合う姿勢はこうですよ、と手本を示してくれ、とても勉強になりました。4月からは、おそらく病棟勤務になると思うので、決められた看護業務を行うだけでなく、医師の治療の意図や根拠を把握して、患者さんとしっかり向き合い、患者さんが自分で気づけないようなことにも気づいてケアできる人になりたいです。

新人なので、とにかく病院でさまざまな経験を積むことからだと思っています。これからの社会では、訪問看護の重要性が増していくと思うので、将来的には、そうした方向性も視野に学んでいきたいです。

岡谷東部中3年生
S.I.T.ロボットセミナー全国大会2連覇
小島 祐太さん
志望高校へ進学後も大好きなものづくりに関わっていく

ロボット製作は、いつからどんなふうに？

機械が好きで、学校でも、工場見学などに行くと、とてもわくわくしました。ロボット製作は、兄が出場していたロボバトルの応援に行き、自分もやりたいと思い始めました。デザインや設計をするよりも、実際につくり込んでいく過程が楽しいです。試作して、調整したり、作り直したりして、よりいいものにしていく。改善できたなと実感できるときがうれしくて。模擬の試合用コートが家にあるので、本番を想定して動作確認をしたりしています。作業では、基盤とか配線とかハンダづけとかが、好きです。

大会の感想は？

小学生は、自作の相撲ロボットで対戦するんですが、5年生のときは、出場するだけで精一杯でした。6年生になると、少し余裕が出たというか、対戦相手のロボットを観察するなどして、いいところ、いい動きを吸収することができました。

中学になり、対戦種目が、ちりとり型のロボットで、時間内に獲得したピンポン球の数を競う「スパイダー」に変わり、最初こそ戸惑いましたが、ゴールにボールを入れる、こっちの方がイメージしやすく、達成感もあって、自分に合っていたと思います。1年生のときは、操作がうまくできず手こずりましたが、材料や強度・剛性などの加減がわかってからは、冷静に試合に臨めるようになり、優勝を重ねることができました。

高校時代にやりたいことや将来の夢を教えてください。

高校では、基盤をつくる過程を掘り下げて学びたい、実技で技術を学びたいと思っています。夢は、基盤のプログラムを組んだり、美しく配線を仕上げたりする技能オリンピックに出て、優秀な成績を修めることです。高校時代の学びのなかで、その先は考えようと思っていますが、いずれは、ものづくりが盛んなこの地元に就職して、自分にしかできない技術で、高品質な製品をつくるのが夢。みんなが、使ってみたいと思えるような画期的なものをつくる人になりたいです。

岡谷西部中3年生
全中スピードスケート競技会500m優勝
県中学新記録をマーク
倉坪 克拓さん
高校に進学し、インターハイ表彰台、
そして世界をめざす

スケートはいつから？

子どもにスケートをさせたいと母が熱望していたことから、小1のとき、父の手ほどきを受けて、リンクデビューしました。父も、中学までスケート選手だったので、すんなりとスケートになじめたのかもしれません。それで、当時は、長野に住んでいたこともあり、エムウェーブスケートクラブに入り、小学校時代は、東北信大会を目標にがんばっていました。大会で結果が出ると、どんどん楽しくなって、練習もやる気が出るので、さらにいい結果につながり、またがんばれる…というように、スケート中心に生活がまわっていました。

岡谷に引っ越してきて、この3年間を振り返ると？

いまはもう慣れましたが、岡谷に来てしばらくは、屋外リンクでの練習が、寒くてつらかったです。夜は氷点下で風が冷たく、室内リンクだったエムウェーブとは大違いでした。3年間、やまびこの森のスケートクラブと市内4中スピードスケート部に所属し、オフは週1日というリズムのなか、夏の陸トレや筋トレなども含めて練習を積んできました。

全中の大会は、古巣のエムウェーブ開催ということもあり、また、県内はじめ、とくに北海道からは、強い選手がたくさん集まってくるので、気合いが入ります。昨年は、500mが2位、1000mが6位でした。今年は、500mと1000mの2種目制覇を目標に臨みました。500mの1本目は、プレッシャーから身体が硬くなり、コーナーを失敗してしまったけれど、自分を信じることで、2本目は緊張も解け、県中学新記録で優勝することができました。1000mでは、北海道の野々村太陽君に負けてしまい2位。達成感も大きいけれど、やはり悔しかったです。

今後の進路や夢を聞かせてください。

高校進学後はしっかり練習して、まずはインターハイで、いい結果を残したいです。持久力をつけて、ライバルに雪辱を果たし、大学でも競技を続けて、世界で戦える選手になれたらと思います。

長野東高3年生(岡谷市出身)
陸上部キャプテン
今井 萌さん
新潟医療福祉大学に進学し、
4月以降も学業と陸上の両立をめざす

いつから陸上競技を？

スポーツが好きで、水泳やスケートもやるなか、陸上は、諏訪圏内の大会、縄文の里マラソンなどに、小学生のころから出ていました。岡谷市の陸上競技協会の練習にも参加し、オール諏訪のメンバーとして駅伝を経験。その楽しさを知って、県内きっての駅伝名門校、長野東に進学することを決めました。

地元を離れて、下宿生活をしていたのですね。

はい。監督の家で、みんなといっしょに。入学当時は不安もあって、帰りたいと思ったりしましたが、仲間ができて楽しくなり、強い先輩たちと生活をともにすることで、自分もがんばろうと思えました。

高校時代の思い出は？

チームが3年連続で都大路（全国高校駅伝）に出場できたことは、よかったと思います。今年は、目標としてきた6位入賞がかない、キャプテンとしての責任は、一応果たせたと思っています。ただ、自分としては、故障後の調整が間に合わず、力不足でメンバーを外れることになってしまいました。昨年は、4区を走ったものの区間18位で、課せられた役割をきちんと果たせなかったので、今年こそと思っていました。最後に納得のできるレースがしたかったという悔しさはあります。

キャプテンの自分が…と気負いすぎて、みんなに迷惑をかけたことも多かったですが、夏合宿などは、とてもいい思い出です。

大学生になるにあたって目標は？

リハビリなど、プロのバックアップにいつも助けられてきたので、わたしも、人の手助けができる職業に就けたらと思い続けて、大学を選びました。作業療法士の資格取得は、むずかしいと聞いていますが、目標にして挑戦することで、充実した学生生活になれば、と考えています。アパートでのひとり暮らしも楽しみです。料理とか…。

陸上では、結果を出したいと思います。全国トップレベルの大会に出場し活躍できるよう、がんばります。